

68 FILMS SAMURAI SHORTS
2003 BS-i+BS-FUJI + google+dentsu tec

ショートフィルム 「キラール・ジョー」
第3稿 脚本 大岡俊彦

『週刊石川雅之その6 WILD BOYS BLUES』
より

(キャバクラで、自分が殺し屋だと信じても
らえないコメディー／8分)

配役

中年ジョー(40)	有沢康博
アケミ(23)	小橋めぐみ
ミサキ(20)	中川愛海
田中兄(75)	(オーデイション)
田中弟(70)	(オーデイション)
ジョー(20)	(オーデイション)
タナー兄(55)	(オーデイション)
タナー弟(50)	(オーデイション)
恵子(20)	小橋めぐみ(二役)
しおり	(オーデイション)
千夏	(オーデイション)
樹利亜	(オーデイション)
ジャスミン	(オーデイション)
追手 A	内トラ
追手 B	内トラ
店のキャバクラ嬢たち	エキストラ
店の客たち、ボーイ	エキストラ

○ クレジット

68 FILMS SAMURAI SHORTS
BS-i+BS-FUJI + goggl+dentusu tec
DAI KIKAKU Presents

○ 夜、裏道（回想）

闇。走る男の足音。息づかい。

ジョーVO「暗闇の中、俺は追手から逃れて
いた。」

壁にもたれて休む男（ジョー）。左
手に握った銃。

ジョーVO「死神と呼ばれた俺がしくじった
ぜ。残りの弾丸は三発。俺はその絶体絶命
を楽しんでいた。」

サングラスをかけ、自嘲するジョー。

○ キヤバクラ

かけていたサングラスを外す中年男。
（部分ショット。しばらくどんな男か
分からない）

テーブルに置かれたそれは、回想でジ
ョーがかけていたものと同じ。

相手をしていた向いのキヤバ嬢ミサキ、
興味深げに。

ミサキ 「えー？ それがそのサングラス
ー？」

中年男 「触ってみる？」

ミサキ 「うわー（笑）」

キヤバ嬢アケミが、男の隣に座る。

アケミ 「失礼しまーす。」

中年男 「失礼されまーす。」

アケミ 「（笑）アケミです。」

ミサキ 「ねえねえこの人の話超面白いよ」

アケミ 「（酒をつくりながら）お仕事とかな
にしているの？」

はじめてフルショット。中年男は、で
っぷりしていて精彩がない感じ。

中年男 「オレ？・・・殺し屋。」

ふたり大爆笑。

アケミ 「そんなわけないじゃん！（笑）」

ミサキ 「マジおもしろい！ サイコー（笑）」

首をかしている中年男（中年ジョー）。
憎めないキャラだ。

○ タイトル 『キララー・ジョー』

○ 夜、裏道（回想）

スキンヘッドに散弾銃を持った背の高
い男（タナー弟）がほえている。

タナー弟「まだか！ キラージョーはよ

お！！（死神^①のタロットを出し）この
カードで予告なんてやり方はもう時代遅れ
なんじゃないスか！？ ねエ兄貴！」

空に一発撃つ。ジャキッ。

後方には、猿ぐつわをされ、殴られた
跡のある女（恵子）と、いスーツの男
（タナー兄）。

タナー兄「まあ落ち着け。女を持つてるのは
こつちだ。奴が人間ならいずれここに来る。
それとも、アンタは本当の死神と恋をして
いるのかな？」

恵子の髪をつかむタナー兄。

はげしくにらみ返す恵子。

タナー弟「ハハハハハハ早く来いよ死神さん
ッ！おめエの評判はタナー兄弟が喰ってや
るぜッ！！」

○ キヤバクラ

アケミ 「で？ で？ で？」

中年ジョー「信じてないでしょ。」

アケミ 「違うの！ 続きは！」

○ 夜、裏道（回想）

ジョーVO「キララー・ジョーの得意技は左手
撃ち。右利きなんだけど、銃は左手。」

カッコいい音楽。以下、PV風のノワール演出（ハイスピード撮影多用）。追い詰められたジョー。左手にもった銃。明滅する水銀灯。コートをはひるがえし構える。追手ふたりが迫っている。横に走るジョー。追手、銃を何発も撃つてくる。横に走りながら二発撃つ。倒れる追手A、B。ジョーの銃は、左側から葉莢が吐き出される。（そういう銃がなければ左右反転で表現？）

ジョーVO「ジョーの銃は、左利き専用なのさ。さあ残りの弾はあと一発だ。敵は凄腕のタナー兄弟。いつもは雇いの殺ししかない殺し屋が、はじめて自分の為に動いた。それがミスだった。」

○ キヤバクラ

アケミ 「どんなどんな？」
中年ジョー「・・・情が入ると、こわくなる。」
ミサキ 「こわくなる？」
中年ジョー「好きな人に銃を向けるときの気持ち。」
アケミ 「銃を向けたの？」
中年ジョー、カッコつけて左手で銃をむけるふり。

○ 夜、裏道（回想）

同じポーズで銃を構えるジョー（OLつなぎなどで）。
その先にはタナー兄弟、恵子。
タナー弟「アッハッハッハッ！ よく追手をかわしたな！」
タナー兄「どうする？ 2対1だぜ。」
銃を恵子に向けるジョー。
タナー兄「・・・おい、この女狙ってるフリして何たくらんでる？」

恵子の後ろに隠れる兄。
タナー弟「おい！聞いてんのか？ アニキの
言葉をよオ！！」

詰め寄る。

ジョー、引き金を引く。

銃弾目線。発射された弾は、恵子と兄
のわずかな隙間へ。

落ちる猿ぐつわと、眉毛。

タナー兄「あ。」

右眉を触る。

恵子 「ジョーーーーー！！！！」

○ キヤバクラ

中年ジョー「そこでタナー兄弟は戦意喪失。

助けた彼女、恵子が、今の奥さん。」

ミサキ 「すごーい。」

アケミ 「ていうか、よく出来てる。」

中年ジョー「いやいや作り話だと思ってるだ
ろ？」

アケミ 「(笑) めちゃくちゃ作り話でしょ」

中年ジョー「そういえばアケミちゃん、あの
時の彼女にそっくりだ。」

アケミ 「(爆笑) 超ウケる。それじゃあウチ
のコは口説けないよ。」

中年ジョー「え？」

アケミ 「だってそんなウソつく人一杯来る
もん。(笑)」

中年ジョー「ウソじゃないよ！」

アケミ 「いやいやいやいや(笑)。なんで男
の人って、カッコつけたがって嘘までつく
の？ 消防士とかさー、『オレ、トビ』とかさ
ー。」

ミサキ 「あと、業界人。誰々ちゃんとマブ、
とか多い多い。」

アケミ 「前『オレ椎茸作ってる』とかもい
た。」

ミサキ 「(笑)」

アケミ 「あとね、『俺は占い師だから、性感
帯がどこか当ててやる。乳首だーッ』って

触られた。当たり前だっちゅーの。」

ミサキ 「で、お兄さん名前なんだっけ？」

中年ジョー 「・・・キラール・ジョーっていいます。」

アケミ 「(爆笑)ウケるウケる。」

中年ジョー 「今のは若い頃の話。20年前。ミサキちゃんが今まで一番苦労したバナシをしたから。」

アケミ 「(笑)でもなかなかそんな事言う人いないよ！ ていうか一番面白かったかも分かった。私はソックリなのね、その彼女に。」

イタズラっぽく急に上目遣い。

中年ジョー 「ホントに似てる。昔の恵子ソックリ。ちょっと目つぶって。」

アケミ 「？」目をつぶる。

○ 夜、裏道(回想)

抱き合うジョーと恵子。恵子目をつぶり、熱いキスへ・・・

○ キヤバクラ

中年ジョー 「ああ、恵子・・・。」

アケミにチューしようとする。

アケミ 「ちよつとなにしてんの！(笑) 奥さんなんでしょ？ その人。」

中年ジョー 「うん。家で待ってる。」

アケミ 「(笑)そのわりにはひとりであてるし。」

中年ジョー 「そんなに嘘っぽい？」

アケミ 「まあ、ここは話を楽しむ所だから。けっこうみんな話面白くする為に嘘ついでるよね。」

ミサキ 「え、嘘なんですか？ 私ほんとだと思ってた。」

アケミ 「だって、TBSの社長だけで50人ぐらいいるじゃん。こないだ首相もふたり来たし(笑)。殺し屋もいるね。この店だけ

で10人はいたね。」

中年ジョー「まじで？」

アケミ「あの人も、あの人も、えーと、あの人もそう。」

色々パン。

明らかに違う（この客の中にキャバラ有名人を混ぜたい）。

中年ジョー「あー！ー！ー！ー！」

アケミ「なに？」

目線の先には、背の高いジジイの客（田中弟）。

中年ジョー「タナー兄弟！！」

アケミ「だれ？」

中年ジョー「さっきの話に出てきたでしょ！地獄の兄弟、弟の方！」

席を立つ中年ジョー。

○ 同キャバラ内、田中弟の席

田中弟、キャバ嬢（しおり、千夏）と盛り上がっている。

田中弟「えー？ ポップコーンにマヨネーズ？」

つけて食べようとする。

しおり「ちがーうの。こうやって（ポップコーンにマヨネーズをつけて、そこに更にポップコーンをひつつける）つけて食べるの。はい、あーん。」

ドサリと座る中年ジョー。

田中弟「あん？・・・あー！ー！ー！！」

千夏「なにー？この人、田中さーん。」

中年ジョー「田中さん？」

田中弟「あっ・・・、ちよっ・・・」

中年ジョー「タナー兄弟って、まさか、田中兄弟ってこと？」

田中弟「（知らないフリ）だ、誰なんだオマエ？」

中年ジョー「忘れもしねえぜ、20年ぶりか。宿敵と思ってたんだぜ。」

田中弟「なあ、楽しくやろうぜ。ここはキ

ヤバクラなんだからさあ。」

トイレから、右眉のないもうひとりの
ジジイ（田中兄）が出てくる。

千夏 「お帰り、田中お兄さん。」

おしぼりを渡す。

田中兄 「ジョー……！ なにやって
んだおまえ！！」

中年ジョー 「あんたこそ、地獄のタナー兄弟
が実は田中兄弟って、俺をガツカリさせん
なよ。」

しおり 「えー？ この人がさっき言ってた
ジョーさん？」

田中兄 「おう。俺が育てた世界チャンピオ
ン。」

千夏 「さつき真っ白な灰になって死んだ
って言ってた、」

中年ジョー 「そのジョーかよ俺は！！」

○ 同キヤバクラ内、中年ジョーの席

がっかりしている中年ジョー。

中年ジョー 「まったく、みんな嘘ばっかりつ
いてるよ。」

アケミ、おしぼりを渡す。

アケミ 「私はホントの事言っしてほしいな。

その人の等身大を見たいと思うもん。」

中年ジョー 「え？」

アケミ 「ホントの自分でぶつかってくる人
の方がステキ。」

中年ジョー 「そう？ だまされるなら、夢見
てた方がよくない？」

アケミ 「中々いないよ、そんな一流のサギ
師。たとえばね、アケミがジョーさん好き

だから指輪買って、とか言ったら信じる？」

中年ジョー 「え？ 好きなの？ オレ。」

アケミ 「だから買って。」

中年ジョー 「ど、どこで買う？」

アケミ 「買ってきて、お店で渡してね。」

ドギマギする中年ジョー。

バレないように笑いをこらえるミサキ。

ミサキ 「ジョーさん名刺下さい。」
中年ジョー 「殺し屋は名刺なんか持ってない
っす。」

アケミ 「(笑) おもろい！」
中年ジョー 「いや、ウケとかね、そういうこ
とじゃなくて。」

アケミ 「分かった分かった。キラー・ジョ
ーさんの話はホントなんだよね。あと、な
んだっけ。後ろに立たれると嫌なんだよね。
こんな感じ？」

椅子とジョーの間に入ろうとする。

中年ジョー 「やめてよ。」

ミサキ 「(笑)」

アケミ 「エッチは黙ってするの？」

中年ジョー 「・・・ちよっと声出す。」

アケミ 「キーモーイ！」

ミサキ 「イメージちがうー。」

アケミ 「やっぱウソだ！！」ふたり大爆笑。

○ キヤバクラ店外、深夜

店から出てくる中年ジョー。

見送るアケミ、ミサキ。

中年ジョー 「はあ・・・。またケータイ番号
ゲット出来なかったよ・・・。」

○ 深夜、裏道

中年ジョー、くわえ煙草をプツと天に
吹く。懐から左手で銃を抜き、全弾撃
つ。

空中のタバコ、はじかれて空中で踊り
続ける。

中年ジョー 「おっかしいなあ・・・。殺し屋
って、リアリテイないのかなあ・・・。」

○ 別のキヤバクラ

樹利亜 「お仕事、何なさってるんですか？」

中年ジョー 「オレ？・・・殺し屋。」

樹利亜 「えーーーーー？(笑)」

ジャズミン「またウソいつて！」
中年ジョー、しょんぼり。
暗転。

○ カーテンコール

エンディングは、華麗な音楽に、
キャバクラ嬢の名刺風にキャスト紹介。
エンディング・ロール。

おしまい。